



災害が発生したとき
**自分の身を守り
みんなで助け合うために**

～9月1日は防災の日～

避難所運営訓練

市では、昨年度から避難所の開設・運営を想定した図上訓練を各地区で実施しています。7月25日の和田小学校を会場とした訓練には、同校が避難所となつている各町内会長、防災担当者、防災士、施設管理者、避難所の初動対応に当たっている市職員が参加。避難所運営ゲーム(HUG)と呼ばれるゲーム形式の図上訓練を通じて、避難者による自主的な避難所運営の重要性について考えを深めました。

今後、市内の全ての避難所で避難所運営訓練を実施する予定です。訓練内容を詳しく知りたい、訓練を実施したいなどの問合せは市民安全課(☎025・526・5111、内線1638)までご連絡ください。

避難所運営ゲーム(HUG)とは!?



当日の訓練の様子

参加者(プレイヤー)が避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。要配慮者などの避難者の状況に配慮した部屋割り、炊き出し場や仮設トイレの配置、また、視察や取材といったさまざまな出来事への対応を話し合いながらゲーム感覚で避難所の運営を学びます。

参加者の声



私は実際に避難所運営に関わることがありましたが、何も準備が整わない中での初期対応でした。今回の訓練はゲーム形式ながらもハイレベルな内容だと感じました。災害時は普段から活動に携わる人が集まるとは限りません。いざというときに、防災士や、看護・介護の専門的な知識を持つ人などの力も借りられるような関係作りをしていきたいですね。

災害は、いつ・どのように起きるか分かりません。いざというときに備え、自分の身を自分で守る「自助」や、近所にお住まいの皆さんが互いに助け合う「共助」について、今一度考えてみませんか。

■自助とは…

災害時に自分の命を自分で守るための行動をとることであり、防災の「基本」です。そのためには、防災に関する知識を身に付ける、防災用品を用意するなどの備えをしましょう。

また、日頃からハザードマップなどで住んでいる地域にどのような危険性があるのか確認しておきましょう。

■共助とは…

災害時に隣近所や町内会などで、お互いに助け合うことです。災害発生直後は行政からの支援が行き届かないことがあります。そのような状況においては、地域の皆さんが互いに協力し、助け合いながら災害に対応しなければなりません。

そのためには、日頃から地域住民が顔見知りとなつておくこと、さらには、災害発生に備えて助け合いの体制(自主防災組織)を事前に作っておくことが大切です。

防災士と防災アドバイザーの活用

■防災士とは…

防災に関する一定の知識、技術を持ち、地域の防災力向上に向けた活動のリーダー役を担う人です。市では、防災士資格取得の機会として養成講座を開催し、防災士を養成しています。地域で実施する防災訓練計画への指導・助言や訓練当日の講評などの取り組みについては、地域にお住まいの防災士にご相談ください。

■防災アドバイザーとは…

市は、上越市防災士会から推薦された防災士を、「上越市防災アドバイザー」として委嘱し、町内会や自主防災組織が実施する防災訓練や防災研修会に、講師として派遣しています。防災アドバイザーの派遣を希望される場合は、市民安全課(☎025・526・5111、内線1638)までご連絡ください。



上越市防災士会
大滝 利彦 会長

体制とするために、女性の防災士をもっと増やしていきたいですね。

上越市防災士会では、町内会との連携を強めるため、3年ほど前から地域ごとの支部の結成を進めています。さまざまな仕事がある町内会活動を、防災面のエキスパートとして、支えていきたいと考えています。

地域と防災士会との連携

平成7年の阪神・淡路大震災では、被災直後の公的機関による救助活動に限界があったため、多くの方が犠牲になりました。この教訓を踏まえて制度設計されたのが防災士です。

現在、市内で約460人が防災士として活動しています。「防災」というと力仕事や危険な仕事が大連想されがちですが、上越市防災士会には女性部もあり、10人が活躍しています。防災士に求められる役割は、普段からの啓発活動や、長引く避難所生活の衛生面での管理など、幅広いものです。今後、より災害に強い